SilverBullet™ For File Messenger 導入事例

SKEED

北海道テレビ放送株式会社　様

ローカル民放テレビ局ならではの魅力的な番組コンテンツの二次利用業務を劇的にスピードアップ！大容量高速ファイル転送ソフトウェア SilverBullet for File Messenger

近年、テレビ放送業界は地上波デジタル放送や 4K 対応など技術革新に伴う設備投資が増大し、加えてインターネットの台頭や人口減少による視聴者減少に悩むローカル局も少なくない。そのような状況において、HTB 北海道テレビは魅力ある自主企画制作の番組コンテンツを幾つも持ち、全国さらに海外の視聴者に向けた番組コンテンツの二次利用に積極的に取り組んでいる。その事業活動のベースとなる迅速かつ効率的な納品を実現するために SilverBullet for File Messenger は欠くことのできない存在となっている。

課題

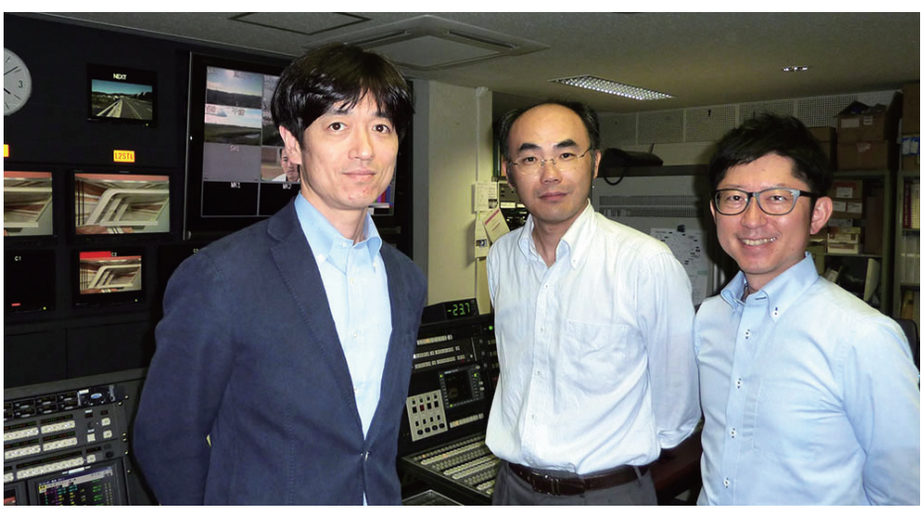
●番組コンテンツの高精細化にともなう容量増大（30 分番組で 1GB→10GB 程度）が発生。通常の FTP では 1 日以上かかる上、エラーが頻発するなど問題化
●特に海外への記録テープによる物理搬送では、段ボール 1 箱数万円の運賃と数日を要し件数増加とともに負担増大

検討プロセス

●高速データ転送技術の有効性を検討するために、海外のクラウドサービスを試験的に導入したが、最終的にコスト高になることが判明
●改めて複数の製品を比較し SFM を高く評価（高速転送、メールによる配信・通知、受取側のインストール不要、英語対応など）

導入効果

●毎週新しく制作された番組コンテンツを「素早く」「低コストで」世界中に届けられる環境の実現
●スポーツ中継後のオンデマンド配信に向けた WEB サーバへの転送時間が、以前の記録テープの物理搬送による半日以上から数十分程度に短縮



■番組コンテンツの二次利用に立ちはだかる納品業務の課題

テレビ朝日系列のローカル局として昭和 43 年 11 月 3 日に開局した HTB 北海道テレビ。同社は、自社制作のヒット番組を数多く手掛け、ドラマやドキュメンタリーなど数多くの受賞歴を誇る。

自社制作している人気番組には深夜バラエティ番組「水曜どうでしょう」「おにぎりあたためますか」、北海道日本ハムファイターズ応援番組「FFFFF（エフファイブ）」、情報番組「イチオシ！」などがあるが、HTB ではこれらの番組コンテンツを放送後に二次利用として DVD として販売するほか、番組グッズの企画・制作・販売、関連イベントの開催、インターネット配信なども行っている。

番組コンテンツの展開先は主に北海道以外のローカル局や海外のテレビ局などだが、事業の拡大、そして画質の向上とともにその納品業務への負担が増していた。国内外で番組コンテンツの営業活動を推進する同社営業局国際メディア事業部兼コンテンツ事業室　橋谷俊氏によると「以前は画質が SD だったので、30 分の番組コンテンツでもデータ容量は 1GB 程度に収まるため、FTP を使ってインターネットで送れる時もありました。しかし、HD に移行した現在では同じ 30 分のコンテンツでもデータ容量は 10GB 程度に膨れ上がり、送信に 1 日以上かかったあげく、途中でエラーになることが少なくありません。よほど、飛行機に乗って持参する方が早いくらいでした」と当時を振り返る。

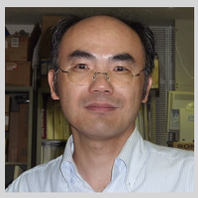
そこでやむなくデータの記録されたテープを段ボール箱に詰めて搬送していたが、海外納品なら段ボール箱 1 つで数万円の運賃、そして到着に数日を要する。搬送する頻度も年々増加し、放送後の番組コンテンツを毎週、複数の海外放送局に届けるものが幾つもあり「運賃だけでもかなりの金額になる」（同）。そのため、納品業務の改善にはやはりインターネットを使った転送手段を確立するしかないと判断、技術部門と協力し検討を重ねた。

SilverBullet™ For File Messenger 導入事例

SKEED

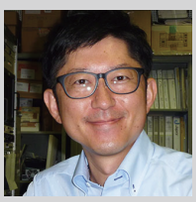
北海道テレビ放送株式会社　様

HTB



北海道テレビ放送株式会社
技術局
放送システム技術部
マネージャー兼
コンテンツ事業室
田中 和明氏

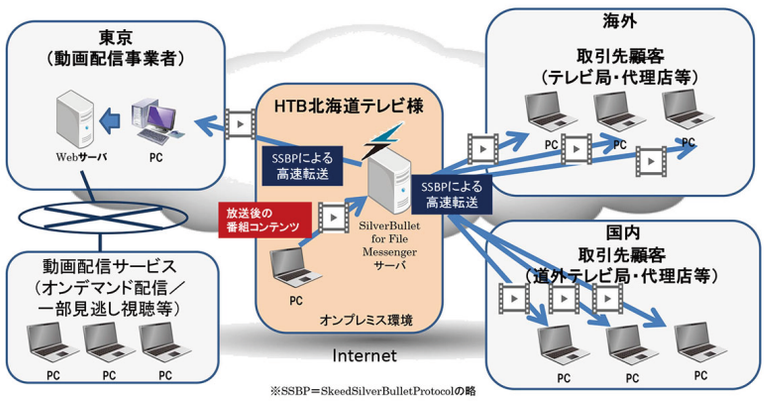
営業局
国際メディア
事業部
兼コンテンツ事業室
橋谷 俊氏



コンテンツ事業室
松田 圭介氏

北海道テレビ放送株式会社（HTB）
本社：北海道札幌市豊平区平岸４条 13 丁目 10 番 17 号
創立：1967 年 12 月 1 日
開局：1968 年 11 月 3 日
従業員数：189 名（2015 年 6 月 24 日現在）
業務内容：放送法に基づくテレビジョン放送、クロスメディア事業（デジタルデータ放送、DVD ソフト制作、ライブラリービジネス、インターネット、HTBonLineshop、番組販売）

SilverBullet for File Messenger利用構成図



※SSBP＝SkeedSilverBulletProtocolの略

■転送性能、使い易さなどコンテンツ事業に求められる転送ツールの要件をすべて満たした SFM

検討した当初は、コスト負担の軽減を期待し海外の高速転送製品を使ったクラウド型サービスを試験的に使っていた。しかし、クラウドベンダーからの突然の値上げが発生し、数年使えばオンプレミスよりもかえって高くつくことが判明した。そこで改めて複数の製品を情報収集し比較したところ、SilverBullet for File Messenger（以降、SFM）に目がとまった。同社技術局放送システム技術部マネージャー兼コンテンツ事業室　田中和明氏は、その時の印象を次のように語る。

「SFM は他の UDP ベースの高速ファイル転送製品と同じく転送速度は優れていましたが、それ以上にメールを使って配信し、受け取る人にダウンロードの依頼メールが届く、そして受け取る人が予め専用ソフトをインストールしたりセットアップしなくてもブラウザベースで操作できる、また、英語モードで送付すると通知もダウンロード操作も英語で案内されるので、海外で取引先へもスムーズに送れる、といった点にとても惹かれました」

結果、SFM は同社コンテンツ事業の主力転送ツールとして選定された。

■コンテンツ事業全体のパフォーマンスを高め、担当部門はもとより、納品先、視聴者など全ての関係者に貢献

導入後の効果も期待通りだという。橋谷氏が語る。「実は、商習慣上、番組素材の搬入費用は受取側が負担することも少なくないのですが、そういった点も含めて、毎週新しく制作された番組コンテンツを素早く、コストを抑えて世界中に届けられることは我々だけでなく顧客にとっても、とても価値があることです」

さらに、同社ではテレビ放送した一部の番組（北海道内のスポーツ中継など）を見逃した視聴者のために、放送終了後に同番組を配信するサービスも行っているが、SFM を使うことで、放送終了後から配信までのタイムラグも劇的に改善した。同サービスを担当するコンテンツ事業室 松田圭介氏によると「以前は映像データをテープへコピーするだけで 2 時間かかるため、さらにそこから東京へ発送するとなると、配信を始めるまでに 1 日近くかかっていました。ところがファイルの作成は数十分もあれば充分で、そこからすぐに高速転送できるので放送当日の配信が可能となり、相当な時間短縮となります」と率直に評価する。

同局のコンテンツ事業に関わる多くの関係者、視聴者に対する SFM の貢献度は想像以上かもしれない。

SKEED
株式会社 Skeed
〒153-0063 東京都目黒区目黒1-6-17 目黒プレイスタワー5F
TEL:03-5487-1033　FAX:03-5487-1037
http://www.skeed.co.jp　E-mail:ssb@skeed.co.jp